



たくと
清水 匠翔 さん

●葛生南小学校 6年

ぼくが夢や希望を与えたい

ぼくの将来の夢は、スーツアクターになることです。

ぼくの4才のころからの夢です。ぼくは、仮面ライダーやスーパー戦隊などを見て、夢や希望をたくさんもらってきました。だから「今度は、ぼくが夢や希望を与える番だ」と思いました。

ぼくはスタミナがないので、そのために毎日マラソンをしたり、体操教室に通ったりしています。これから、空手などの武道を身に付け、アクションタレントの養成所に入り、スーツアクターになります。



佐野ブランドキャラクター
さのまる

市長からの メッセージ



オリンピックが幕を閉じましたが、今月はパラリンピックが引き続きブラジルで開催されます。この2カ月、寝不足となる方も多いのではないのでしょうか。私もその一人ですが、日本選手の活躍に一喜一憂しながら、感動と勇気、希望を与えてくれるスポーツの力を再認識させていただきました。今月は本市のスポーツの祭典である市民体育祭が開催されます。参加される選手の皆様には、各支部の代表としてオリンピック同様、白熱した競技を繰り広げてもらいたいと思います。

この夏もたぬまふるさとまつり、さの秀郷まつり、くずう原人まつりをはじめ、三轟山大文字焼きや各地域での納涼祭が盛大に開催されました。庁舎完成後初めての開催となった秀郷まつりでは、庁舎を中心としてうまく開催できたと思います。今回は神輿・お囃子の巡行に「秀郷ねぶた」が加わり、子ども達が跳人となり、祭りを一層盛り上げてくれました。ご協力を頂いた多くの皆さんに、心から御礼申し上げます。

さて、現在、本市では地方創生における総合戦略に基づく事業を展開しています。その一つとして、ムスリムの方々の観光誘客に取り組んでおり、先月にはインドネシアの観光関連事業の関係者と会談し、今後、佐野市を含めた日本ツアーの実施に向けた基本合意を取り交わしました。また、クリケットを活用したスポーツ・ツーリズムの実施や、本市の産業団地への本社機能移転誘致など、総合戦略の基本目標である「新しい人の流れ」や「安定したしごと」づくりに取り組んでいます。今後ますますな事業に取り組み、本市の進展に努めてまいります。これから台風シーズンが到来します。本市では、来月2日に総合防災訓練を実施しますが、市民の皆さんにおきまして、いざというときの備えをしておいていただきたいと思えます。

岡部正英

今月の表紙



「佐野市総合防災訓練」(平成26年10月19日・田沼グリーンスポーツセンターで実施)本紙5ページでお知らせしていますが、10月2日(日)に田沼グリーンスポーツセンターで佐野市総合防災訓練を行います。

9月は大雨などの災害が発生しやすい時期です。本紙4ページに掲載している情報などに留意し、災害へ備えてください。

毛利 昭一郎 さん
(多田町)



キラリ★
話題の「ひと」

○プロフィール
昭和19年8月生まれ。
平成21年春、佐野市多田町の
「賀茂別雷神社」宮司に就任。

草刈り神主とよばれて

毛利さんは、平成18年秋、それまで宮司を務めていた弟さんが病気で続けることができなくなったことで、代わりに神職を務めるため、40年ぶりに多田に帰郷しました。それまで会社員でしたが、大学時代に神職の資格を取得してあったそうで、平成19年春に神職を始めました。

40年の空白期間は大きかったそうですが「最初は苦労を重ねたそうですが「地元同級生など周囲の方に支えられ、何とか始められました」と話していました。

毛利さんが着任して真っ先に取り組んだのは、草刈りや竹林の伐採。「境内や周辺をきれいにしないと参拝客に足を運んでもらえない」と思い、無我夢中で取り組みました。

この作業をしばらくしていると、氏子の方々などが手伝いに来るようになり、しだいに境内が明るく、清潔になりました。このことで参拝に来る人や散策に来る方が多くなったそうです。

着任3年目には毛利さんの長男も神職になり、長男があげたブログをみた方々が清掃活動に参加してくれるようになりました。また、農山村の地域資源を次世代に残そうと、都市と農山村

をつなぐボランティア活動に取り組む組織「とちぎ夢大地応援団」の支援を得て、神社の周りにあった耕作放棄地の整備が着々と進み、周辺の景観は見違えるほどきれいになりました。

毛利さんは野外ステージの設置や周辺を散策できるエリアの拡大など、いくつかのプランに思いを馳せ、「活気ある地域づくりに貢献したい」と抱負を話してくれました。

毛利さんの不断の努力で、伝統文化が根差した地に新たなパワースポットが生まれようとしています。この実現に向けて、人的にも財政的にも助けが必要だそうです。皆様のご支援をよろしくお願いします。

(市民記者 佐藤久夫)



草刈り神主・毛利さん

佐野市 ばんざい

ヨバレルは「呼ばれる」ことで、招待されることだった

おいしい食事を御馳走になることを、かつて「ヨバレル」といいました。ヨバレルの語源は「呼ばれる」で、声をかけて呼び寄せられること、つまり招待されることです。もとの意味はだんだん変化しています。「ヨバレて行った」と「ヨバレて来た(帰って来た)」のヨバレルは意味が異なります。前のヨバレルは招かれるという意味。後のヨバレルは御馳走になるという意味です。「〇〇家」に招かれることもヨバレルというし、「〇〇家」でおいしい食事をごちそうになることもヨバレルといえます。このように、ヨバレルは場面や状況によって、意味が変化します。

老夫人が結婚式に招かれた(ヨバレタ) 夫のことを話している場面です。

「ウチノヒト(夫は、隣ンチ(近所の家のご祝儀(結婚式)にヨバレテ、いましがた出かけヤンシタ(出かけたよ)」

次は、中年男性が祝賀会に招待され、御馳走になった(ヨバレタ) 話しをしている場面です。

「コナイダ(この間) 祝賀会に出席したら、俺の好きな物べー(ばかり) 出されたんで、腹イッペーヨバレテ、ケーツテ(帰ってきたよ)」

次は、三十代の男性が御馳走になった(ヨバレタ) 話しをしている場面です。

「オバサンチの近くに来たんで、立ち寄ったらめずらしい物をヨバレチャッタ」

次は、立派な飲食物でなくてもヨバレルというようになりました。

「ゆっくりして行ガッサーッていうもんだから、お茶をヨバレチャッタ」

(市民記者 森下喜一)

